

教 養

令和2年度において都道府県労働局などに寄せられた労働相談のうち、「いじめ・嫌がらせ」の相談件数は約8万件と9年連続で最多となった。また、令和3年4月に厚生労働省が公表した「職場のハラスメントに関する実態調査報告書」によると、過去3年間に勤務先においてパワーハラスメントを受けたことがある人の割合は31.4%、セクシュアルハラスメントを受けたことがある人の割合は10.2%であるなど、ハラスメント対策は喫緊の課題となっている。

労働施策総合推進法の改正により、令和2年6月から職場におけるパワーハラスメント防止対策が事業主に義務付けられた。

併せて、男女雇用機会均等法及び育児・介護休業法においても、セクシュアルハラスメントや妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントに係る規定が一部改正され、事業主に相談等をした労働者に対する不利益取扱いが禁止されるなど、ハラスメント対策の強化が進められている。

そこで、次の問いに答えなさい。

問1 ハラスメントが発生する要因について、あなたの考えを述べなさい。

問2 働く人がお互いを尊重し、ハラスメントのない職場を実現するため、どのような取組みを行えばよいか、あなたの考えを述べなさい。

専 門

※ 問題は【問 21】まであります。

【問 15】～【問 18】に関しては著作権保護の理由により非公表となっているため、【問 21】の次に例題を掲載しています。

【問1】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

児童虐待とは、「保護者（親権を行う者，未成年後見人その他の者で，児童を現に監護するものをいう）がその監護する児童（18歳に満たない者）に対する行為」として、『 ① 』，『 ② 』，ネグレクト，心理的虐待が挙げられている。

【問2】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

「いじめ防止対策推進法」では、「学校は，いじめが『 ① 』行為として取り扱われるべきものであると認めるときは所轄『 ② 』と連携してこれに対処するものとし，当該学校に在籍する児童等の生命，身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは直ちに所轄『 ② 』に通報し，適切に，援助を求めなければならない。」と規定されている。

【問3】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

令和4年4月1日に施行された「少年法等の一部を改正する法律」では、『 ① 』歳以上の少年を特定少年と定めている。

【問4】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

外傷的出来事の話を知ると，聞き手の側も精神的打撃を受ける。これを『 ① 』受傷という。慢性的にダメージを受け，それが回復されないと，支援者のメンタルヘルスにも深刻な影響が生じる。

【問5】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

心的外傷後ストレス障害(P T S D)は，危うく死ぬまたは重症を負うような外傷的出来事を経験したあとに生じる疾患である。主要症状として再体験症状，『 ① 』症状，認知と感情の否定的変化，『 ② 』症状がある。

【問6】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』とは，本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをいう。『 ① 』は，年齢等に見合わない重い責任や負担を負うことで，本来享受できたはずの，「子どもとしての時間（勉強に励む時間等）」と引き換えに，家事や家族の世話をしていることがある。

【問7】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』とは，ローゼンツァイク（Rosenzweig, S.）の欲求不満に関する理論を背景に考案された。24の欲求不満場面から構成され，漫画風に2人以上の人物が描かれており，受検者は吹き出しが出ている人物の発言として思いつくものを自由に書くように教示される検査のことである。

【問8】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

厚生労働省が定めた「労働者の心の健康の保持増進のための指針」によると，労働者と日常的に接する管理監督者が，心の健康に関して職場環境等の改善や労働者に対する相談対応を行うことを，「『 ① 』によるケア」という。

【問 9】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』とは、スキナー（Skinner, B.F.）が提唱したもので、生体の自発的な行動に随伴する環境の変化に応じて、その後の行動の自発頻度が変化する学習をいう。この際、行動の自発頻度が増加することを強化、減少することを罰または弱化という。

【問 10】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

防衛機制の一つで、自分の欲求と全く正反対の行動をとることを『 ① 』という。例えば、嫌いな相手に対し敵意を示すのではなく、極端な尊敬を示すのは、『 ① 』である。

【問 11】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

D S M - 5 における注意欠如・多動症では、基本的特徴として『 ① 』，多動性及び衝動性の持続的な様式が 6 か月以上続き，また症状のいくつかは『 ② 』歳になる前に出現し，症状のいくつかは 2 つ以上の状況（家庭や学校等）で現れる。

【問 12】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』とは，教育分野に関する知識に加え，社会福祉等の専門的な知識や技術を有する者で，問題を抱えた児童生徒に対し，その児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり，関係機関等とのネットワークを活用したりする等，多様な支援方法を用いて，課題解決への対応を図っている。

【問 13】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』は、災害やテロの直後に子どもや大人に対して行うことのできる効果の知られた心理的支援の方法を、必要な部分だけ取り出して使えるように構成したものである。『 ① 』は、トラウマ的出来事によって引き起こされる初期の苦痛を軽減すること、短期・長期的な適応機能と対処行動を促進することを目的としている。基本的な活動の原則は、「見る」「聞く」「つなぐ」とされている。

【問 14】

次の文の空欄①，②，③に当てはまる語句を答えよ。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」では、「国及び『 ① 』は、配偶者からの暴力を防止するとともに、被害者の『 ② 』を支援することを含め、その適切な『 ③ 』を図る責務を有する。」と規定されている。

【問 19】 簡記式

『アサーション・トレーニング』について簡記せよ。

【問 20】 簡記式

『心理教育』について簡記せよ。

【問 21】 簡記式

『司法面接』について簡記せよ。

次のうち、機能的固着の記述として妥当なのはどれか。

1. 「マッチ箱をろうそく立てに使用する」ということが思いつけないなど、対象物の普段の使用方法に固執してしまい、別の使用方法が思いつかないことである。
2. 普段、足し算による解法に慣れていると、かけ算による解法が思いつかないように、ある種の解法への慣れが他の解法の発想を制限することである。
3. いったん仮説を立てると、仮説の立証に固執し、それに合った事象だけに注意が向くようになることである。
4. 難解な問題で行き詰まった際、休憩を入れずに持続的に問題に取り組むと、かえって解法が発想されにくくなるという現象のことである。
5. 同じ構造の問題でも数字や記号で表現されると、具体的な事物によって表現される場合よりも解法が思いつきにくいという現象である。

交流分析に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 交流分析では、感情的な不適応を生み出すのは出来事ではなく、その人の非合理的な信念体系であるとし、非合理的な信念を合理的な考え方に修正していく。
- イ. 交流分析では、対人関係のパターンを分析するゲーム分析や人が無意識に演じている脚本分析などを行う。
- ウ. 交流分析では、人間は劣等性を持つ存在であるとし、劣等感を補償するために、より強く完全になろうという意志を「権力への意志」と呼んで重視する。
- エ. 交流分析に基づいて開発された性格検査法にはエゴグラムがあり、親、大人、子どもの自我状態からパーソナリティの特徴を捉える。

1. ア, イ
2. ア, ウ
3. ア, エ
4. イ, エ
5. ウ, エ

「9歳の壁」(「10歳の壁」)に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 近年では栄養状態が改善され身体的発達はよくなっているものの、9歳前後の児童期の運動機能の低下が顕著になっていることである。
2. セルマン (Selman, R.L.) による社会的視点取得の発達において、未分化・自己中心的な視点の水準から、主観的・分化した視点の水準にいたる難しさのことである。
3. 学力の個人差が拡大し、その学年に期待される学力を形成できていない子どもの数が増加する現象のことである。
4. エリクソン (Erikson, E.H.) が提唱した、この時期に訪れる「勤勉性 対 劣等感」という心理社会的発達課題のことである。
5. 9～10歳前後の急激な身体的変化において、男子の成長のピークが女子よりも遅れることである。

論述問題

次の事例について、「初回面接での留意点と把握すべき内容」、「見立て」、「今後どの様に関わっていくのか」について、それぞれあなたの考えを述べよ。

(事例)

中学校の教師から「中学2年生の男子生徒が、学校内で問題ばかり起こして困っています。同級生と些細なことですぐトラブルになったり、いつもイライラしていて教室に入れず、校内の物に当たったりします。我々教師が注意しても言うことを聞かず、暴言を吐く等、反抗的な態度ばかりとります。保護者に状況を説明しましたが、『家では何も問題ないので学校でのトラブルが信じられません。』と言って、協力的ではありません。保護者に一度、少年サポートセンターへ相談に行くように伝えているので、面接をお願いします。」という連絡を受け、その母親と少年に対して、面接することとなった。

○ 少年についての情報

- ・ 少年の家族は、父親、母親、少年及び妹（小学5年生）
- ・ 少年は、中学1年生の夏頃から生活が乱れ始め、成績は下がり、部活動も辞めてしまった。
- ・ 面接時、少年は落ち着いているが「家で我慢しているから、学校でイライラしてしまう。」と話し、母親は「息子については困っていない。先生に言われたから相談に来ただけ。」と言い、高圧的な態度であった。